

.....

『My family』 1組担任 藤村 英里子

私は札幌より寒く、札幌より田舎な十勝の音更で生まれ育ちました。私の父は子育てに熱心で、私が小学生の頃やっていたバレーボールなどの大会には必ず来て大声で応援してくれたり、焚火や釣りのコツなど多くの事を教えてくれました。おやじクラブの事を話したら「教員の親は入会できないのか？」と勇んでいた程です。

小さな頃はそんな父が大好きでしたが、年を重ね世の中には色々楽しい事があると知った私は、父に対し「うるさいオヤジだなあ」と思っていたものです。

「口うるさく言うのも親の愛情」そう気付いたのは、親元を離れ生活するようになってからです。そんな事もあり、今では熱い父も含めた家族のみんなが大好きです。

子育てに奮闘中の皆様も、現在手塩にかけて育てているお子様に、いつの日か「ウルサイ!!」なんて言われる日が来るかもしれませんが肩を落とさず人生を語ったりコミュニケーションを欠かさずとる様にすると良いと思いますよ。

いつしか、親の助言を理解しそのことに感謝して「私を育ててくれてありがとう」こんな事を言われて涙する日が来ると信じて...

これからも、子育てを楽しんで下さいね！

.....

「父性の復権」

12 組 佐藤 行広

「パパに似ているなんて言わないでよ、うちのパパなんかお風呂上がりパンツもはかないで家の中を歩いているのだから」小学2年の長男がお母さんたちに向かって怒っている。先日、おやじクラブのメンバーと家族でチカ釣りに出かけたときの会話である。

うちの子供たちは「名前も顔も私に似ている」とよく言われる。名前は私の一字「行」をとつ

て3人の息子につけた。名前は私がつけたのだから仕方がないが、パパのだらしない姿がよほど気に入らないようだ。

家内も「みっともないかつこしないでちょうだい。」「だから女の子が産まれないのよ...」

私もこんな「おやじ」ではいけない、もっと子供や家内に尊敬される父親にならなくてはと思った。ところで尊敬される父親とは何か...一年前に園で開催された子育て講演会で講師の方が推薦していた本を、書店で見つけた。「父性の復権」(林 道義著)これだと思い読んでみた。

父親の役割は家族を統合し、理念を掲げ、文化を伝え、社会のルールを教えることにある。この役割が失われると子供は判断の基準、行動の原理を身につける機会を失ってしまう。いじめや不登校がおこり、利己的な人間、無気力な人間が増えるのもこの延長線上にあるのだという。本当にその通りであると思う。

自分は、家族を統合するためのしっかりとした価値観を持ち、家族と共有できる理念をもっているか、日本の良い文化を子供に伝えるよう努力しているか、いつも公正な視点で社会を見つめ、子供に社会的規範を教えているか、感情的になって子供を叱ってはいないか、自分に当てはめてみると理想とする父親とはほど遠い。「良い父親になるため、もっと努力をするぞ」と決意を新たにした。

が、しかし...「今晩は観楓会だから、俺は家にいないからな、3人の子供の面倒をちゃんと頼むぞ...」と言う私に対し、家内は「手のかかる子供が4人から3人になるから助かるわ...」と応えるのだった。

夫性の復権への道のりを遙か遠くに感じた。

.....

「男らしさ、女らしさにこだわらない」

ベネッセ「みんなおおきなあれ！」

子供は生物的な性の違い(セックス)を2~3歳で、社会的性の違い(ジェンダー)を4~5歳で理解し始めます。特に4~5歳の頃はおもちゃ・服装・行動等を男女に色分けしたがる傾向にあります。

男女の違いに関する思いにみは、「男だから、女だから」といった周囲の言葉の他にも、例えば「家でお父さんは家事をしない」といった無意識の行動から伝わることも多いのです。また、

テレビの影響も大きく、ヒーローもの等で男は強く、女は弱い固定観念を植え付けられている可能性もあります。

この時期、「自分らしさ」が育つ前に「男らしさ、女らしさ」が押しつけられると、自分の感情をストレートに出せない大人になる可能性があります。

例えば、転んで泣いている男の子に、「痛いんだもん、泣いちゃうよね」と言うのと「男の子なのだから泣いちゃだめ」と叱るのでは大きな違いです。痛くて泣いているのを否定されると、「自分はいけないことをしている」と思い、自分の感情を表現することを諦めたり、偽るようになったりして、そのことは心に余計な負担をかけ、大人になってからの人間関係の形成に影響します。

この時期は「自分らしさ」を大切に受け止めることで、男女の違いよりも個性の違いを受け入れられる基礎を子供の中に作ってあげることが大切です。

「自分らしさ」を伸ばすには、子供の性格を良い方向で認めてあげることです。弱々しさの裏側には優しさや配慮があります。

そして、もう一つ大切なのが、その子の興味を受け止めてあげること。お絵かきが好きなのに、「もっと元気に」と無理に外に連れ出すのはいかがなものでしょうか。

子供にとっては、あるがままの自分を受け止めてもらえることは何よりもうれしいもの。それが自信に繋がり、「自分らしさ」を伸ばす基礎になります。

「自分らしさ」の上に自分なりの「男らしさ・女らしさ」が芽生え、自分の性を自分らしくとらえるようになっていきます。

・ 10・11 ・ ・ ・ ・ ・

秋のゲーム大会

10月29(日)に秋のゲーム大会(オープン行事)が開催されました。年次計画では9月24日の予定でしたが運動会の延期等の影響で開催が1ヶ月も遅れ、「寒くなるし…」と一時は中止も検討されましたが、「子供達と身体を動かす絶好の機会」「非会員の参加も多いし是非」と開催要望が多く、強行することとなりました。

幸い当日は気温が低い状態でしたが晴天に恵まれ、100名を超える親子に参加頂きました。

準備体操『ソイヤパワー』で身体を温めた後、4チームに分かれ、

『ファール昆虫記・ふんころがしゲーム』
『トントントンおかあさんだよ&しっぽ取り』
『つなひき』で点数を競いました。

そして最下位チームのおとうさんは子供をおんぶしながら走り、粉の中から手を使わずにあめを探す罰ゲームを行い、最後に整理体操にみんなで『しんごママ』を歌って踊りました。

ゲームの後は、バーベキューやポップコーンマシュマロ焼き、そして春の田植え大会で植えた稲を刈り脱穀して玄米ごはんを試食しました。

子供達の歓声・寒さに負けずに遊んでいる姿これぞ「おやじクラブ行事」という感じで、一時は中止になりそうだったゲーム大会ですが、皆様からの要望により雪の降る前に開催できて本当に良かったと、胸をなで下ろしています。

お手伝い頂いた方・幼稚園の先生有難うございました。

この日は、幼稚園ホールで「ひまわりの会主催フリーマーケット」が開催されており、一部のおやじはサイフの中身が無くなるほど買い物をしていました。 担当幹事 菅野(カンノ)

おやじクラブ同好会観楓会

11月25・26日にお・ク・ブ 同好会行事として定山渓溪流荘にて観楓会が開かれました。

ビール、酒、ワイン、焼酎、ウイスキーを体内に流し込みながら政治・教育・育児そして薄野裏情報までわいわいやりながらいつのまにか畳の上で撃沈している人もいれば、中には朝まで呑んでいた強者もいました。

．．．．．

夫性の復権への道のりは遠く...でも、少年犯罪の凶悪化や学級崩壊など、子供達を取り巻く我が国の状況を考えると今すぐ何とかしなければ、とってしまいます。

そこで、O-mail Vol. 9は特別企画「21世紀のおやじ達へ」と題して菅原園長先生からおやじ達へのメッセージによる新春特別号にしようと思っています。ご期待ください。

担当：なみかわ

E-mail：namikawa@mpd.biglobe.ne.jp